レケイアとして見なければならなかつた。人間は友であり、友を有しなければならない。友愛が彼の完全なる存在の、幸福の基礎である。それ故、友愛の領域を分析して、次のことを明にするのが道德學の課題である。(一)自然によつて與へられたものは同時に又道德的向上發展への素地を含むものである。(二)特殊なる道德的價値と動機の認識によつて、自然的なるものは道德的形相の實現の質料として解釋される。友愛の現象が正しく理解されるとき友愛は總ての人間的財の最高のものとして、人間の總ての共同社會の幸福の根基たる使命を明かにされる。友愛は共同社會の總ての形式と段階を通じてはたらき、柔しい心根から包括的なる人類愛にまで到る。友愛のはたらくところ嚴格は失せ、愛が支配する無私なる贈與が最高の愉悅となり、德が歡喜となる。友に於て第二の我を見出し、それに於て善を二重に生きる、友愛は生を生き甲斐あらしめる。かゝる無限なる人類の幸福化を阻む一事がある眞の友情を結び得るのは少數者に限られてゐる。そしてこの少數者の力を以てしては、多數者を、たゞ高貴なる心術の上にのみ建設される淨福の狀態に到らしめることは出來ないのである。

(,,Die Pädagogische Hochschule, Wissenschaftliche Zeitschrift des Badischen Lehrervereins.“ Jg. V, 1 リッケルト生誕七十年記念號、一九三三年より服部英次郎抄)

「ゴロス」の改題　,,Deutscher Geist“ と改稱の由傳へられたが更に,,Zeitschrift für Deutsche Kulturphilosophie“ と變更、新第一號を出すとのこと。

新刊紹介

增田惟茂著心理學研究法

殊に數量的研究について

本書は昨年の夏研究者として又指導者として將に圓熟の境に入られんとするとき惜しくも逝かれた故東大助教授增田惟茂博士の學位論文の公刊であつて氏の心理學研究生活三十年の結晶とも見るべきものである。博士は大正十五年「實驗心理學序說前篇」を公けにされた折やがて「後篇」をも發表すべきことを約束されながら容易に之を果されなかつたが、本書はその「後篇」の構想を基礎とし學位論文として主題を數量的研究にとられた關係上一方或る程度の問題の限定をなされると共に他方之に「前篇」とも重複する心理學研究法としての一般的序論的な考察をも加へられたものであつて全篇六百頁にも亜んとする大部の勞作である。

その內容は第一章乃至第三章が心理學の對象並びに研究法の根柢を論ぜるもの、第四章乃至第九章が心理學の數量的研究の各面即ち基本的量判斷そのものゝ研究、精神物理學的方法、精神作用の時間的研究、精神現象の情意的又は價値的方面の量的研究、記憶の數量的研究、作業・行動及び表出の研究に於ける數量の意義並びに智能の測定等について具體的なる實驗に即しながら數量的研究乃至數量の意義の根本的解明を試みたもの、最後の第十章が心理學に於ける統整法の考察をなしたものとなつてゐる。このう

ち本論をなす數量的研究は或ひは餘りにも專門的であつて他の方面の研究者には無味に過ぎるかも知れぬが、併し序論並びに最後の統整法論は心理學一般の基本問題にもふれるところ多く心理學研究者は勿論哲學方面の人々にも興味深かるべく又裨益するところも大なるものがあると思はれる。而して此の部分が全體の約半分をも占めてゐるのである。

本書の特色は增田博士の風格の特色の反映である。博士は本書の緒言に於いて心理學の研究態度に二つをあげ、第一は或る一つのオーソリティの立場を借りて其の立場の上に仕事をするものであり、第二は自分で自分の立場を批判し確定して行くものであつて、博士自身は此の後の道を選んだと云つて居られる。此の勞苦多い道をとつたからこそ氏は學位論文の提出までに三十年近くの歲月を必要としたと云へるかも知れない。併しその代り博士の言說にはその一言一說にも長年の實驗と思索の結果としてでなければ得ることの出來ない權威と榮光とがある。我國の學者は新しい學說に對しては徒らに附和するか徒らに反動的となることが多いと云はれるが併し少くともこれは博士には妥當しない。博士に於いては凡ての事實並びに學說が十分に我がものとされ博士自身の立場からの公正な批判が與へられてゐる。例へば心理學の對象を論ずる場合の形態心理學に對する批評の如き、心理學の研究法の根柢を考察される場合のシェーラーの他我知覺說に對する批評など、それらのものゝ大なる眞理性と貢獻とを認めつゝなほ徒らに之に追隨することなく諸種の事實について詳細なる檢討を試みられることによつてなほ留めてゐるその一面的な偏向を忌憚なく指摘して居られるのである。かゝる態度はそのほか行動心理學につき、無意識の概念につき、或ひは本論の到るところに現れてゐる。本書は誠に日本に於いてもかくの如き充實せる基本的研究が見られるに到つたと世界の心理學界にも誇り得るものと云ふべきである。

併しまた本書が增田博士の心理學體系の全部でないことは云ふまでもない。心理學の研究領域は數量的研究よりは遙かに廣いものである。寧ろその餘の部分にこそ具體的人性にふれるが如きものが多いのである。博士の關心も亦決して數量的なものに限らず更に偉大なる心理學體系の建設へも向つてゐたやうである。氏が昨年四月日本心理學會第四回大會に於いて發表された「精神生活と獨立體系の基底的聯關」の考想なども之を目指したものであつたと思ふ。さういふ意味で此の書を見るにつけその體系を完成せられず急に逝かれた博士が一層惜しまれるのである。併し之を暗示する博士の識見は本書によつても十分に覗ふことが出來るであらう。

本書は右の如く我國に於ける心理學的研究の最高峰の一つを刻するものであるから心理學の研究者は勿論、之に苟くも關心を持つものは必ず一部を座右に具ふべき書である。心理學の研究者は之によつて自らを鍛練し、更にかゝる研究の發展を期し、哲學などの研究者は夫々の立場から之を玩味し更に懇切なる批判を加へることによつて我國心理學界の此の上の進展に寄與せられるなら

ば增田博士の遺志もまた繼がれるものと云つてよからうと思ふ。
（岩波書店發行、定價五圓五拾錢、佐藤幸治）

彙報

哲學茶話會

十月二日（火）午後七時より樂友會館に於て、
プラクシスについて　眞下　信一君

美學會

九月二十六日（水）午後七時より樂友會館に於て、
文學の作品面について　園頼三君

美學讀書會

十月五日（金）午後三時より美學研究室に於て、
Karl Vossler, Die Sprache als Schöpfung und Entwicklung
河本　敦夫君

寄贈圖書

武市健人譯ヘーゲル全集 11、哲學史上卷　東京　岩波書店　定價　金參圓五拾錢

石原　謙著　岩波全書　基督教史　東京　岩波書店　定價　金八拾錢
廣島文理科大學教育學研究室　教育科學 2　東京　岩波書店　定價　金壹圓貳拾錢
桑原　隲藏著　東洋文明史論叢　京都　弘文堂書房　定價　金參圓八拾錢
本田　義英著　佛典の內相と外相　京都　弘文堂書房　定價　金四圓
松本潤一郎著　社會集團と社會階級　京都　弘文堂書房　定價　金壹圓八拾錢

寄贈雜誌

九月號
哲學雜誌

十月號
哲學雜誌、文化、理想（人生觀の哲學）、基督教研究、學校教育、信濃教育、社會學徒、生理學研究、哲學改造、大東、國維、願悲、呂